

柳枝工事ニ就テ (第九卷第二號所載)

會員 工學士 中 村 猪 市

河川溝渠ノ護岸工トシテ最モ有益ナル柳枝工事ノコトヲ記載セラレタ著者ノ勞ヲ多謝スル記者ハ本誌ヲ手ニスルヤ其目次ヲ見テ珍ラシキ記事ダト思フテ熟讀シタ多年ノ實施上ノ經驗ヲ詳述セラレタノデオ蔭デ大ニ本工事ニ關スル智識ヲ得タ記者ハ明治三十四年頃縣ニ在勤當時ニ田澤氏ノ考案ニ倣ツテ鬼怒川ノ下流ノ護岸工事ニ一寸柳蛇籠ヲ試設シタコトアルノミデ其後ノ成績モ見ル機會ハナク本工ニ就テノ實驗上ノ智識ハ頗ル乏イモノデアアルカラ左ニ之ニ關聯シタ二三ノ極瑣細ナコトデ氣付イタコトノミヲ述ベ置クコトニ留メル

柳ハ大抵ノ河岸等ニ在ルガ柳ノ材料ノ不足ノ所デハ籠ノ一部ニ竹ヲ使用シテ柳ヲ併用シタコトモアル元ヨリ柳ノミヲ使用シタモノニ比ベテハ幾分其效果ニ於テ缺クル處ハナイデハナイガ柳ノ不足ノ所デハ之モ施工ノ一方法カト思ハル、又抗棚柳ノ立粗朶モ柳ノ不足ノ所デ雜粗朶ノ多イ様ナ所デハ柳バカリトセズニ雜粗朶ニ柳ヲ交ゼテ使用シタコトモアル之モ相當ノ效果ハアル

竹蛇籠ト柳蛇籠トノ經費ノ割合ハ柳蛇籠ハ竹蛇籠ノ約半額位ノ經費デ出來ル上其效果ハ大ナルモノデアアルカラ大ニ獎勵スベキモノデアアル

柳葉ノ蟲害ヲ防グニ石油ヤ石灰ヲ用キラレタガ之ハ驅蟲劑デアアルガ殺菌劑トシテ適當ノ時期ニばると一液ヲ散布スルコトモ費用モ安クテ效果モ大ナルコト、思ハル、

「明治三十三年ニ施工セシ分流締切新堤ニ於ケル工事ノ施工高ハ常水位十一尺乃至十五尺ニ及ビ高キニ失スル嫌アリテ或ル部分ハ成育不能トナレリ同三十五年以降施工セル揖斐長良兩川ノ新堤ノ施設ニ對シテハ稍々經驗ヲ得テ工法ニ改善ヲ加ヘタルニ依リ良ク發芽シ良ク成育シ恰モ原始的野生ノ觀アラシメ豫期以上ノ效果ヲ擧ゲタリ云々」トアルハ十一尺乃至十五尺ノ高サニシテ善キ效果ヲ得ラレタル意ナルヤ若シ然リトセバ其改善ノ工法ヲ參考ノ爲ニ承リタイ（完）